

2017年3月18日

国際ロータリー第2660地区  
IM第7組ロータリーデー 開会挨拶

2016-17年度ガバナー

松本進也

本日はIM第7組ロータリーデーの開催にあたり、多数の皆様にご来臨頂きまして御礼申し上げます。

現在、ロータリーは「変革」を迎えています。2016年規定審議会での「クラブに柔軟性を持たせる」ことを主とした非常に重き意味をもつ種々採択がなされました。当地区でもRIが推進する戦略計画を元にIM再編成案とガバナー補佐選出方法の変更案を地区決算決議会にて採択し、2018-19年度の実施を目指しています。また、今後、新クラブの結成、「ロータリー学友会」の旗揚げと、常に変化の一石を投じております。



また、同じく規定審議会にて、職業奉仕の概念について、他奉仕部門と並列に扱うような文言が明記され、我々が従来考えていた「職業奉仕」論は世界では「職業倫理」論として考えられているということが浮き彫りにされました。我々は、高い職業倫理感をもった高潔な人格であることを求められ、自らの職業を通じて社会のニーズを満たし、自己の職業に品位と道德水準を高め、自らを取り巻く人達の模範となり、道德的能力の向上に努めるべきだとされています。世界と日本の解釈に角度が異なっても、このような我々の基本精神であり、今年度ガバナー方針の”The Ideal of Service“は全く揺らぐことはありません。

本日の基調講演は大阪市立総合医療センターから原 純一副院長をお呼びし、「より深く生きる医療の現場から」というタイトルでご講演頂きます。原副院長は今回、ホストクラブを務められる大阪南ロータリークラブが地区補助金を使用した支援事業「TSURUMI こどもホスピス」の一般社団法人の副理事長を務められ、またパネルディスカッションのコーディネーターには同ホスピスの事務局長の水谷綾様はじめ、深く関わる皆様をお招きしました。ホスピスに入院されるお子様たちが医師と共に病気と闘い、家族が協力し、そして地域が支援する。この三者間の協力体制が混然一体となって子供たちを守り、より良き明日へ導くものと考えます。本日は幼き患者さんの心に真に寄り添い、共に悩み苦闘することで見いだせる生きる意味について、原副院長の基調講演を通じて、共に考え、我々にできる活動とは何かを考えて参りたいと存じます。

最後になりましたが、IM第7組の更なるご発展と皆様のご多幸とご健康を祈念申し上げ、開会の挨拶といたします

以上